

名勝哲学堂公園整備検討委員会
令和7年度第3回 議事概要

学識者委員の 出席状況	亀山委員、栗野委員、北田委員 ※内田委員：個別説明を実施
議事の概要	<p>【実施設計（第一期）について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 工事搬入路にあたる部分の敷石や縁石を撤去する必要がある場合は、円了期の設置物でないことを確認しておくこと。・ 演繹観裏手の崩壊箇所への土留めについては、耐力を要するのであればプラ擬木製とすることも致し方ないが、景観上好ましいとは言えない。将来的にプラ擬木製が原則とならないよう、方針を明確にしておくこと。・ 七十七場解説板等の整備は、園内全体としてなるべく早期に行った方が望ましい。また、パンフレット等でどのように補うのかも早めに検討されたい。・ 新設する石標については、設置年月を記したい。また、彫文字の書体を施工時まで適切に検討すること。・ 据え直しを行う石標は、何らかの基準をもって高さを設定すること。古写真がある場合は照合することが望ましい。 <p>【常識門の修復工事について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本柱と貫の緊結方法について、隙間に材を埋め込むことで効果が期待できないのであれば、ビス+埋木の形式として良い。 <p>【六賢台の耐震診断・修復設計について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 小鐘の復元を目指すのであれば、古写真や制作者の作風等の手掛かりがないとしても、もっと調査をし尽くすべきである。 <p>【石積（独断峡・心理崖・造化爛）の診断調査について】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 補強が必要な箇所については、景観面、施工による影響範囲、経済性の観点から、クララ工法とバトレスアンカー工法を組み合わせることで良い。